

おはなしのポケット (那賀川町)



発行/平成27年(2015年)12月1日 [689号]  
 編集/阿南市企画部秘書広報課 〒774-8501 阿南市富岡町ノ町12番地3 ☎0884-22-1110 e-mail: hisho@city.anan.tokushima.jp  
 印刷/米崎印刷株式会社



児童も楽しみにしているという授業前の読み聞かせ



わらべうたで子どもたちも笑顔いっぱい

那賀川町内を中心に活動する絵本の読み聞かせグループ「おはなしのポケット」の皆さん。地域の子どもたちに豊かな心を育んでほしいと、那賀川図書館や小学校などのおはなし会を開催しているほか、創作人形劇の上演やブックスタートボランティアを通じて読書活動の推進に取り組んでいる。今年で24年目を迎え、その頻度は年間200日以上にも上るほど。2011年には文部科学大臣表彰を受賞していて、評判も高い。

「おはなし会は、参加者みんなが穏やかな時間を過ごせる場所にしたいですね」。そう話すのは、代表の小西嘉代子さん(53歳)。「読み聞かせはただ文字を追うだけではありません。毎回、子どもたちの反応を確かめながら、季節や参加者の年齢に応じて、一番楽しんでもらえる内容にしています。時にはキーボードの生演奏で場を盛り上げたり、語りやわらべうた、簡単な工作を取り入れたりしながら、子どもたちと本をつなぐための創意工夫を加えています」と魅力を語る。



外部から講師を招いて開催した大人向け講座の様子



自分より年下の子どもたちに絵本を読んであげる柴さん

おはなし会は、子ども向けのものだけでなく、家庭で絵本を読み聞かせる側の「大人」を対象にしたものもある。読み聞かせの大切さや奥深さをより幅広い年齢層に知ってもらいたいとの思いからだ。また、定期的に県内外から講師を招いて勉強会を行い、自分たちの知識や技術を磨くことも忘れない。

幼い頃からおはなし会の常連だった柴海斗さん(平島小4年)も、去年からは絵本を読み聞かせる側として参加してくれている。「どんな風に読むと一番内容が伝わるのかを考えて、家で練習しています。話を聞くだけより、読み聞かせをする方がずっと楽しい」と目を輝かせる柴さん。小西さんたちも、心強い仲間の登場に目を細めている。

読み聞かせという分野から、地域の子どもたちの成長を支え続ける「おはなしのポケット」の皆さん。その熱心な活動の原動力の一つに、おはなし会に参加してくれる子どもたちの笑顔があることは間違いなく。